
口頭発表

[B] 分類・形態・組織

2024年3月29日(金) 09:00 ~ 11:30 B会場 (萩)

10:00 ~ 10:15

[B-05]宮野（2022）で報告されたハビロキバガ亜科（チョウ目：エグリキバガ科）3種の分類学的研究

○荒島 弾¹、屋宜 禎央²、広渡 俊哉²、外村 俊輔³、奥 尉平 (1. 九大院・生資環・昆虫、2. 九大院・農・昆虫、3. 徳島県立博物館)

エグリキバガ科ハビロキバガ亜科は幅広い翅をもつ蛾で、世界から200種程度、国内からは3属9種が記録されている。このうち*Scythropiodes*属について、宮野（2022）で3未同定種が報告されたが、これらの雄交尾器は本属の特徴である発達した gnathosを持たず、属の所属も含めて検討する必要があった。3種のうち*Scythropiodes* sp. 3は、韓国・台湾産個体に基づき*S. sungsookimi* Sohn & Wu, 2023として記載されたが、雄交尾器の transtillaの側方突起を gnathosと誤認しているなど形質の相同性の検討に問題があった。そこで分類学的研究を進めた結果、雌雄交尾器の特徴から3種は*Odites*属に含めるのが妥当で、残りの2種は未記載種であると判断した。また、多くの種が主に木本植物の葉の広食性である本亜科では珍しく、*O. sungsookimi*は樹皮を摂食することも明らかになった。